

この鳥居は木造の「明神鳥居」で、高さ 12 メートル、幅 17.1 メートルあり、この種の鳥居としては日本最大のものです。1 本の柱の直径は 1.2 メートルで、構造全体の重量は 13 トンあります。南神門の第一鳥居と同じく明神様式で建てられており、最上部に反りのある笠木が付いています。北参道と南参道が合流地点、本殿へと続く正参道の入口となっており、「大鳥居」と呼ばれています。大きさが目立つことから、この鳥居が明治神宮を象徴する建物の一つとされることもよくあります。

元の大鳥居は、1920 年に台湾の阿里山山脈の樹齢 1,200 年の檜（ヒノキ）を使って建立されました。残念ながら、元の鳥居は 1966 年に落雷によって破壊されてしまいました。現在の大鳥居は、樹齢 1500 年の檜から作られました。

現在の鳥居の檜そのものが、台湾の丹大山の山腹で、東京で材木商を営む篤史家によって発見されたものです。彼は、元の鳥居が 1966 年に落雷で破損した後、鳥居再建のお手伝いをする事を誓いました。商売をご加護してくれていた神に感謝するためです。同じ仕様の木を日本国内で見つけるのが難しいとわかった、氏は正しい木を探して何度も台湾を訪れました。多くの人々の助けを借りてやっと元の場所から切り出され、明治神宮に運ばれ、1975 年 12 月 23 日に遂に完成の日を迎えました。